

巻頭言

第 33 回ライフサポート学会大会(LIFE2017 大会)開催にあたって

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 生活工学共同専攻
太田裕治

大役を引き受けるにあたり、改めて、本会趣旨文（昭和 60 年）を読み返してみました。長い文章ではありません。次ページに引用します。お読みください。

「社会構造の急激な変革」に対し、「高度技術の開発・利用」を謳う点、また、「医学・生物学等と結合した工学」に「社会福祉・行政等・より社会的・集团的視点からの必要条件」を付加した視点は、今も新しく感じられます。近年、科学技術の社会還元が強く叫ばれるようになりましたが、設立当初より本会は主張していたわけです。わが国ではイノベーションに苦しんでいる状況が続いております。イノベーションは単なる革新技術の創造に留まるのでは不十分であり、社会普及して初めて全うすると言えます。その点でも趣旨文は卓見と言えましょう。また、技術分野を単に「工学」と述べるに留め、特定分野に言及しておりません。この点も素晴らしいと思います。特定分野に偏れば、その視点からの（偏狭な）課題解決となる可能性があり、他の豊かな技術選択肢（更には、技術の組み合わせ）が見失われる恐れがあるためです。創造性とは、異なる複数領域の結合にあります。LIFE 大会には工学の様々な分野からの参加者がおり、工学の特定分野に限定されない議論ができることは、この大会の大きな特徴と考えます。若い研究者の方々はどうぞ議論を恐れず、「そもそもその解法でよいの？」から議論を始めて頂ければと思います。

この「複数領域を横断的に結び付ける」という発想は何も工学領域に限られません。保健・医療・福祉・介護の各領域は、これまで高度に専門分化・発展してきましたが、高齢化の急速な進展に伴い、持続可能な社会保障制度に向けて再構築せねばならない時期を迎えています。これに果たす技術イノベーションの役割は極めて高いと考え、伊藤弘人先生に特別講演 S3「保健医療福祉介護領域における分野横断的なアプローチ—メンタルヘルスからの示唆—」をお願いしました。今後の本分野における技術開発の指針を示す重要なご講演と考えますので、是非、ご参加頂ければと考えております。

今回の運営に当たりましては、極少数のメンバーで行っております。案内も HP 中心とさせて頂いております。従来の完備された運営からしますと万事省エネ型でご不便をお感じになる面もあるかと存じますが、参加者皆様が運営に加わって頂く観点で大会を盛り上げて頂ければ幸いです。また、講演予稿集の表紙は学生会の方々のセンスによるものです。ここに感謝申し上げます。初日には学生会主催の懇親会も企画されております。若い研究者の方々には、是非、この分野で親睦を深め頑張って頂きたいと思っております。本大会がその一助となれば望外の喜びです。

ライフサポート学会とは

1. 今後の我国社会発展の基盤

我国社会の健全な発展は、自立精神の助長・相互扶助の精神の涵養を基礎として、個人・家庭・社会の生命・生活を健康に維持・発展することに依存する所が大きい。壮年労働層の減少等、我国有史以来始めての社会構造の急激な変革である高齢化時代の到来を目前にして、この維持・発展のためには、足らざるは補う高度技術の開発・利用による支援が、今後益々必要となる。

2. 必要となる新しい技術

この新しい技術は、医学・生物学等と結合した工学に、社会福祉・行政等・より社会的・集団的視点からの必要条件をも付加した新しい視点からの高度開発技術であるといえよう。個人に関するものとしては、今後の高齢化時代に新たに発生・増大が予想される疾病を含んだ医療用高度機器、高齢化時代を支える個人の健康維持のための各種訓練器・家庭用計測器・生体用各種補助機器等の開発による技術的支援が、集団に関するものとしては、障害者の介護にあたる家族の日常生活維持等、生活環境保持のための機器、障害者・高齢者等を含む地域社会における自立生活援助のための機器開発等を、さし当たり挙げることができよう。

3. 本学会の目的

自立精神を助長し、相互扶助の精神を伸展することを柱として、我国の個人・社会の生命・生活を健康・安全に発展させるために求められる技術的支援特に新しい機器開発について、研究開発・情報交換等を行い、我国および国際社会の発展に貢献することが、本学会の設立とその活動の主たる目的である。この目的の実現には、多数異なる分野の知識・経験の統合によって作られる新しい概念に立った技術分野を開拓・建設していかなばならない。このためには、従来のいわゆる「医工学」とも異なる「生命・生活支援技術」とも称されるべき新しい高度な工学の発生が期待される。本学会はこの新しい工学・技術分野に関心のある研究者に広く参加を求め、研究開発・意見交換の場を提供し、また関係生・医・薬・理・工等の研究諸機関・団体との連絡を密にし、特に機器開発の基礎となる精密機械分野と提携補完して、共に本分野開拓に努め、我国社会の新しい発展の基礎の一つとして役割を果たそうとするものである。